

熱中症に注意しましょう！

熱中症は、夏に起きるイメージがあると思いますが、季節の変わり目で寒暖の激しい今の時期も油断はできません。真夏ほど気温が上がらなくても暑さに身体が慣れていないため子どもの身体には、負担が大きいです。「蒸し暑い」「真夏日」などの予報が出た時には対策が必要です。

エアコンを適度に使いましょう。外遊びの際には、帽子を被りましょう。時々木陰などで休憩し、こまめに水分補給をしましょう。喉が渇いたと感じる前に補給させることがポイントです。

園でも環境調整・水分補給は十分に行いますが、登園前には必ず朝食を取りましょう。また、脱ぎ着のしやすい服装、着替えの用意もお願い致します。

★つめは伸びていませんか？

つめが伸びていると、つめの中に汚れが入ったり欠けたりして危険です。また、乳幼児のやわらかい皮膚を傷つけることがあります。つめは、ご家庭で定期的に切ってください。深つめに注意！切りすぎると皮膚を傷つけ、化膿することがあります。

★麻疹（はしか） 風疹（ふうしん）ってどんな病気？

最近、麻疹や風疹の発生が報告されています。乳幼児が感染すると重症化しやすく、感染力も強いといわれています。大人でも免疫のない場合十分感染する可能性はあります。

★麻疹とは

麻疹ウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。

熱、咳、鼻汁、目ヤニ、身体の発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。発疹が消えた後もしばらく色素沈着が残ります。合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などがあります。

★風疹とは

風疹ウイルスの飛沫感染によって起こります。発疹、熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。合併症として、関節炎、血小板減少性紫斑病、脳炎などがあります。妊婦が妊娠初期に感染すると、先天性風疹症候群を持った児が生まれる可能性があります。

効果的な予防方法は、ワクチン接種です。

1歳児と5歳から7歳未満、就学前1年間で摂取するMRワクチンを必ず打ちましょう。